

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 国立大学法人熊本大学

学部・研究科等名 薬学教育部

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目Ⅱ 教育内容

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

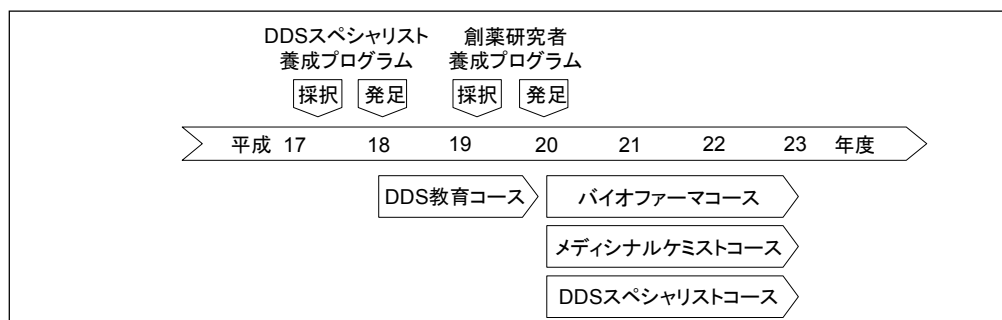
○顕著な変化のあった観点名 学生や社会からの要請への対応

平成 17 年度に採択した「魅力ある大学院教育イニシアティブ：DDS スペシャリスト養成プログラム」により、平成 18 年度に「DDS（ドラッグデリバリーシステム）教育コース」を開設した。これらの取組が評価され、平成 19 年度の「大学院教育改革支援プログラム：創薬研究者養成プログラム」の採択に繋がった。

従前の薬学系大学院では、創薬研究者に必要な特許制度や臨床開発などの創薬現場に直結する教育が十分でなかったため、より実践的な創薬研究者教育が製薬企業等から要請されていた。そこで「創薬研究者養成プログラム」では、平成 20 年 4 月から、製薬企業等で必要とされる創薬研究者の実践的専門性を取り入れた、①医薬品のターゲットを発見し、その検索を行うバイオフィーマコース（生物系創薬研究者）、②医薬品を合成するメディシナルケミストコース（化学系創薬研究者）、③DDS スペシャリストコース（製剤系創薬研究者）の新たな 3 つのコース（資料 1）を開設し、学生や社会からの要請に対応した多くの授業科目（資料 2）を新たに開講している。

上記のとおり、平成 20 年度以降の取組による「学生や社会からの要請への対応」の改善状況は極めて顕著である。

資料 1 平成 20 年度からの 3 つのコースの新設



出典：大学院教育改革支援プログラム資料等を基に作成

資料 2 創薬研究者養成プログラム開講科目名

各コース共通科目：有機化学、物性化学、生体機能学、医薬品情報学、医薬品安全学、臨床医学、ケーススタディー演習、特許演習、起業演習（大学教員演習を含む）、市場調査演習、臨床開発演習、課題実習（独立研究）
バイオフィーマコース科目：ゲノム創薬学・遺伝学、医薬品スクリーニング学、動物実験学、分子生物学・生化学、蛋白質実習、動物実習、細胞実習、遺伝子実習
メディシナルケミストコース科目：有機合成学、天然物化学、X線結晶構造解析学、NMR 構造解析学、分析化学実習、有機合成実習－1、有機合成実習－2
DDS スペシャリストコース科目：DDS 材料化学、DDS 薬効学、DDS 細胞生物学、DDS 生体高分子学、徐放化・吸収促進実習、体内動態実習、遺伝子製剤実習、蛋白質製剤実習、医療薬学実習

出典：薬学教育部授業計画書等を基に作成